

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：家山自治会

開催場所：川根地区センター

開催日時：平成 28 年 12 月 21 日（水）19 時 00 分～21 時 00 分

参加者：自治会側【地域住民の方 28 人】

市側【染谷市長、眞部危機管理部長、鈴木議会事務局長、三浦秘書課長、田村川根地域総合課長、三浦観光課長、鈴木教育総務課長、秋山協働推進課長、高木川根地域総合課長補佐、駒形戦略推進課係長】

内 容

① 沖自治会長あいさつ

- ・地域の皆様のご協力により、防災訓練、河川・環境美化運動、敬老会など諸々の事業を終了することができた。
- ・本日は市の職員も大勢出席いただき、家山自治会への関心の高さが伺える。
- ・地域の皆様もお忙しい中ご出席賜りありがたい。
- ・せっかくの機会であるので、皆さんから様々なご意見を出していただきたい。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・この車座トークは、市内全ての 68 自治会をまわるということを実施している。最初の 2 年間は「語る会」ということで呼んでいただいたところに伺っていたが、呼んでいただけない自治会もあり、全部限なくまわるという事は難しかった。
- ・また、今年と来年の 2 年をかけて次の総合計画（H30～37）の策定作業を行っているが、この他にも、国土利用計画島田市計画や中心市街地活性化基本計画、公共施設再配置計画、国土強靱化計画の策定もしていくことから、各地域の課題や特色、さらにはどのような取り組みをしているのかをこの目で、この耳で確認して、それを市政に反映したいということでもまっている。
- ・川根も金谷も地域によって地域の皆様からいただくご意見は全く違う。このために、その地域の特色や課題を知ることは計画を策定していく上で重要だと考えている。

■これからの行政のあり方、地域の抱える課題への取り組みについて

- ・島田が今、一番課題としていることは人口減少。少子高齢化に伴い、働く人が減っていくということが課題である。
- ・高齢者が増え、福祉、医療、介護の経費は増えていく、子育て施策、教育にも力を入れなければならないが税金を納める人が減っていく。
- ・島田市では「まち・ひと・しごと地方創生総合戦略」を策定し、2040年の人口を8万人となるよう、様々な施策の計画をたてている。
- ・2010年と2020年の比較で、8億5千万円程度減るという試算がある。
- ・島田市と金谷町が合併したことによる交付税措置の加算額が12億円であったものが、平成27年度には10億円、今年度は7億円に減っており、平成32年度にはゼロになる。
- ・かつては、土地の値段が上がり、給料も上がり、全てが右肩上がりだった。こういう時代だと、人生設計（老後についても）ができた時代であった。
- ・明日は今日より良くなるといった（高度成長期）と違って、いつリストラになるかもしれない、給料も上がるかわからない、土地が値上がりする目途がないことに加え、優良企業であっても業績が不振となったり、非正規雇用の若者が増え、さらに結婚したくてもできない、子どもを産みたくても産めないといった人が増える日本の社会は、我々が若い頃の夢を描いていた時代と違う時代になってきている。
- ・税収も減っていった、高齢者が増え、福祉、医療、介護の経費は増えていく。
- ・また、公共施設は276施設663棟の建物がある。この施設に係る修繕費の費用はこれからの40年間で2,515億円かかる。年間63億円にもなる。今は維持管理・更新に年間36億円かけているので、その1.75倍となる。投資できる金額との整合性を図るためには、今後40年間に公共施設の約21%を削減しなければならないというデータが出ている。
- ・道路は1,140km、橋は1,152橋ある。道路、橋は5年に一度点検する必要があることから、年に道路では200km程度、橋では230程度を点検しなければならない。もし不具合があれば修繕しなければならない。
- ・新しいものを造る時代ではなく、今ある施設を長寿命化していかに長く使っていくかという時代となっている。
- ・国は1,063兆円の借金があり、国民一人当たりの借金は837万円となっている。次の世代の島田市民に何を残すことができるのかを考えないといけない。
- ・あったらいいなという気持ちだけで、たくさんのモノ（公共施設）を造れる時代ではなくなった。
- ・このため、公共施設の整備も考え方を考えていかなければならない。例えば、川根小学校に市立図書館と併設する発想や、市役所なら、最上部をマンションにして、マンションを売ったお金で市役所を建てる、市民会館との合築などの発想が必要となる。
- ・過去の経験や過去の事例が問題解決の参考にならないということになる。大胆な発想や、これまでにない考え方をもたない時代になっている。
- ・かつて、拡大、拡散して発展してきた都市は、これからはダウンサイジングしつつ、機能は付加価値をつけていかなければならない時代となっている。
- ・優先順位をつけて事業に取り組むことと、市民の皆様と一緒に取り組んで行くことが不可欠となっている。
- ・こうした中、地域の助け合いの事例として、ある地域では、500円の券などを活用して、地域の人達で助け合う生活支援のサービスを行っていく計画がある。元気な高齢者はサービスを提供し、たとえ500円でも収入になる。（道悦島の事例）

- ・蛍光灯の取替えや重いものを持たないなど、生活で困っている方を地域で助け合うサービスの取り組みもその一つである。
- ・高齢者が、公民館で放課後児童クラブを行っているところもある。隣接地域の小学校の放課後児童クラブに児童を送迎することを地域住民が行っている事例もある。(湯日の事例)
- ・コミバスが走っていない地域においては、市がワゴン車と保険とガソリンを負担して、地域の足を確保するために、地域がボランティアなどの運転手をお願いしていくことを計画しているところもある。このように、地域の課題を自分たちで解決していくことを行政として最大限支援していく。
- ・災害時に資格を持った人たちがその資格を活かして、地域で活動するような取り組みをはじめた地域もある。(横岡の事例)
- ・島田市は県内で一番離婚率が低いまち。持ち家率が多い(県内2位)。軽犯罪率が少ないまち。住み良いまちだと考えている。
- ・地域の皆様が、安心・安全で住み続けられるまちづくりを進めていくために、「あったらいいな」から「選択と集中」の中で事業を組み立てていくことにご理解をいただきたい。

■家山自治会の人口、世帯について

- ・家山自治会の11月30日現在の世帯数は922世帯、人口は2,525人で、高齢者人口は1,055人、高齢化率は41.8%となっている。市の平均が29.5%なので、10ポイントくらい高いが街中でも4割を超えているところもある。15歳以下の人口は220人で人口に占める割合は8.7%となっている。市の平均は13.7%なので5ポイントくらい下回っている。川根地域でも集落単位では高齢化率は5割を超えているところが10以上ある。

■川根地域への市の取り組みについて

- ・川根地域は島田の奥座敷という表現をさせていただいている。
- ・どうしたら、この川根地域に多くの人を呼び込み、お金を落としてもらおう仕組みをつくるかということに加え、若い人がこの地域から出て行かないようにするには、どのようにしたらいいかということを考えている。
- ・川根温泉ホテルの建設、川根小学校の建設など、投資金額を人口割で見れば、市内の中でも投資が集中している地域であるといえる。
- ・今年は、抜里駅のトイレの整備、パラグライダーの基地の整備及び鶴山の森林公園にキャンプ場を整備していく。手ぶらで来られるキャンプ場が主流だそうで、そのようなコンセプトと地元の皆さんが運営してくれれば、雇用も生まれるし、地域資源を活用して、ここに人を呼び寄せる仕組みをつくっていきける。どこかの一企業にやってもらうのではなく、まちづくりの一環として地域の皆様が受け皿をつくってほしい。冬場でないと木を切ることができない。(キャンプ場にするには木を切らないとならない。)何とか財源をかき集めて対応したいと考えている。
- ・川根地域は土地が動かない。街中よりも地価が高いところもあると聞いている。
- ・チャイルド(子育て世帯用の住宅)ができたが、その目的は、安い賃料で住んでいただいて、その間貯金をして、最終的に土地家屋を買って川根地域に定住してもらおうというもの。結局、川根地域では土地がないということで地域を出て行く若者がいるというのが現状がある。

- ・商工会、森林組合の跡地については、最初、民間の方にアパートをやってもらおうという考えもあったが、入居率が悪い場合の家賃の補償などの課題もあることに加え、分譲地として整備した方が、定着率がいいということも考えられる。
- ・川根地域には地域医療を担える開業医が必要であり、そのための土地として提供することが地域の皆様にとっても有益なことであるので、こうしたことを検討している段階である。
- ・川根地域に役に立つような土地の活用をしていきたい。
- ・鈴木医院の横の市有地についても、公共性に資するものという思いをもって、活用を考えていきたい。
- ・川根温泉のメタンガスの利活用について、当初予算で約1億8,000万円を計上して発電施設を整備する。メタンガスが温泉水とともにでていますがこれを利活用するもの。小規模な鉱山開発なら許可（鉱山法）が下りるようになったために実現する事業。
- ・川根温泉ホテルの年間電力使用量の約6割を賄える。熱源は川根町温泉（プール等）で活用する。全国でも例を見ない事業である。
- ・投資したお金は5、6年で回収できると考えている。
- ・9月の補正予算に、この北部地域への光ファイバー網の整備費として1億8,000万円を計上し議決を受けた。（補助率が2分の1であるため、総事業費は約3億6,000万円となる。）予算（債務負担行為）が認められれば29年度の事業実施となる。（情報格差、情報を得る段階での容量の格差の是正は若い方々に住んでもらうためには大事なことだと考えている。）
- ・市内の世帯数37,600世帯のうち3,000世帯に光ファイバーを整備することが目標だが、100%になるかは分からない。数%残るかもしれない。
- ・事業提案を年が明けてから行うが、できるだけ広い範囲に敷設できるような提案をお願いしたいと考えている。
- ・仮に敷設できない地域が生じた場合には、（新しい）総合計画の中に位置づけてやっていきたいという考えをもっている。
- ・タブレット端末が普及している中で、家庭の中でのパソコンの普及率は高くなっていくかは不透明ではあるが、まずは光ファイバー網の敷設に取り組んでいく。
- ・パラグライダーについて、（高取山は）風が吹かないということもわかってきているので安全性も考慮していきたい。
- ・将来的にはタンデム飛行でき、そこを拠点としてメッカにしていくことが必要。（川根の売りにしていくことと滞在型の施設との連携も考えていく。）
- ・これからは「縮充型」の社会としていくことが必要で、川根地域も様々な地域資源を結び付けていく仕掛けを作っていく必要がある。
- ・そのためには人材が必要であるが、この川根地域には地域づくりに熱心な方が多いので、こういう方々のお力を借りて進めていきたい。
- ・地域おこし協力隊については一生懸命、この地域を発信してくれている。首都圏で実施する移住・定住の相談会では、移住者目線での話が聞けることが大きな効果があり、有楽町にあるふるさと回帰センターには、島田市を名指しで訪問してくれる方もいる。
- ・こうした地域資源を有機的に連携させて、交流人口を増やし、雇用を生み、かつ若者が外に出て行かなくてもいいようにすることが必要。
- ・国道473号の整備（左岸側並の整備）の要望をいただくが、国道473号の整備は国土交通省に要望に行く最重要なものの一つ。国も県も道路などを造る

予算は15年位前に比べ約3分の1程度しか確保できなくなっている。国の道路予算が絞られている中、国直轄の高規格道路が優先されている。大代以北は地形から工事費がかかる道路であるため難しいことはあるが要望は継続していく。

- ・国一バイパスの4車線化、大代IC～新東名までの4車線化も詳細設計を進めている段階。
- ・新東名のインターチェンジと国道473号が交わるところに「にぎわい交流拠点」を整備していく。
- ・新東名の北東エリアの84haを内陸フロンティア地域として開発することの一環として整備する。
- ・JA大井川と連携し流域の良質な農産物を販売できるようなマルシェの構想もある。(日本一広い売り場面積の計画)
- ・また、川根、川根本町に上っていくための拠点とも考えている。
- ・最短で平成30年5～6月に着工できる計画で、31年のオープンを目指している。
- ・新東名の下に、空港のような駐車場の整備も考えている。

■最終処分場について

- ・最終処分場は、あと5、6年は使えるが、県の許認可の期限が今年度末となっている。これを更新するためには地権者全員の同意が必要。
- ・市は裁判で全面敗訴という結果となり、控訴せずに和解させていただくことで誠心誠意お話を継続させていただいてきたが御理解をいただけなかった。
- ・山田町の震災がれきを受け入れ、その震災がれきの放射線濃度の測定をしたが、放射線濃度は島田市の濃度と同等またはそれ以下であった。
- ・地権者の了解なしに受け入れてしまったことで、数名の地権者の方の行政に対する長年の不信感からいい返事をいただけなかった。(全員の地権者の同意をいただけなかった。)
- ・このため、新しい最終処分場は継続して適地を探していくが、当面の間、田代環境プラザの熔融後の飛灰については、県外又は市外の業者に処理をお願いすることとした。これは、市民生活に支障をきたさないことを最優先に考えたことの結果である。自前の処分場を持っているのは近隣自治体(焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町)では島田市だけ。(自前で処分場を持つよりは)外に出したほうが処分費は安い。
- ・新たな最終処分場について、おとし調査を行い、候補地とした6箇所は様々な課題があり難しいこともあって適地(20年間継続して使用できること、きれいな水の排水、道路のアクセス、周辺の集落の状況など)はなかった。
- ・この事例で学んだことは、市民の皆様に納得をしていただくことである。

■新病院の建設について

- ・建設する場所は、野田の病院の敷地内。東側の駐車場に建設する予定。地上7階建て。岩盤まで杭を打って建設をする。
- ・新病院は、県道から直接進入し、建物の形はT字型となる。
- ・5階から7階が病棟になるが、1フロアを3看護単位(45床×3看護単位)で構成する計画。

- ・ドクターヘリを屋上に整備する。病床数は445床。診療科目は今ある診療科目を想定している。
- ・療養病床をなくし、回復リハの病床となる。市民病院の今の療養病床は一般の療養病床とは違って、長期に入っている方は1、2名。
- ・行き先が見つかるまでの間は一般病床で対応する。
- ・事業費は基本計画の段階で247億円とお示しをしたが、これ以上にはならないと見込んでいる。高い精度の積算に基づく事業費を年度内にお示しできると思う。
- ・平成32年度末の新病院が開院を目指している。
- ・新病院の建設に加え、新東名島田金谷インター周辺の開発、旧金中跡地の開発など、大きなプロジェクトが停滞しないよう取り組んでいく。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1-1	<p>■家山川について（越地）</p> <p>トンネルを抜けると目前に広がる田園風景、家山川に沿った私たちの越地村落は川と共に拓け、豊かな自然を受け継いできた。しかし、二世紀前には、家山河内川の度重なる氾濫洪水に悩まされ続けた村人達に、天保三年、村医者で事業家でもあった、村松周庵によって川筋瀬替が提案され、住民の賛同を得て、掛川藩の承認の許、翌年栃下山の切割瀬替の工事が成功し、越地の田園（1万6千余坪）が造成された。秋の収穫を迎える毎に、往時の住民の苦勞と喜びが偲ばれる。さて、時代が過ぎて、明治44年6月末に降り続いた大雨洪水で、祢宜島地先の灌漑用水路、田畑、塩本方面の道路の崩落等が発生し、難渋した様子が記述されている。当時の灌漑用水の取り入れには、井台という川を堰き止めをして取水する手段が取り入れられていた。今、当時の面影を残すものが、井台橋の下の家山川にある。また、祢宜島地先には、井戸瀬の地名もある。（井台とは、川床の沈下土砂の流失を防いで自然流水の取り込みを容易にした、一石二鳥の効果があったと思われる。）私たちは、この工法を今一度復活させて、農業用水の多目的な活用と取水経費の削減が図れればと思っている。</p>	<p>●（質問の主旨：12月14日午前、地元関係者の方5名と現地にて立ち会ったところ、質問にあった昔の工法の復元を要望しているのではなく、家山川を横断する新たな頭首工を設置し、既存の農業用水路までの側水路を設置して欲しい。現在は家山川よりポンプアップにて取水を行っているの、地元農家が負担している取水経費を軽減したいとのことだった。）</p> <p>ご提案のあった工法は現在の頭首工という取水設備になる。</p> <p>農業用水の取水について、現在は2箇所の家山川よりポンプアップしており、農家の皆さんが負担している電気代などの取水経費を軽減するために、家山川の上流に新たな取水施設として頭首工の設置を要望したいとのことだった。</p> <p>新たな取水施設の可能性については、志太榛原農林事務所や河川管理者である島田土木事務所へ相談するが、多額の予算を必要とし、また、事業を行うにあたっての採択要件、費用対効果、また河川占用などを考慮するとかかなり難しいことと思われる。</p> <p>現在の施設に係る取水経費の軽減、農業用水路の維持管理や修繕については、越地地区で行っている「多面的機能支払交付金」での支出や農林課で行っている「原材料支給」、「重機借り上げ」の活用ができるので、詳</p>

		細については農林課へご相談いただきたい。
1-2	■現場を見てもらいたい。	●現場を確認することはお約束する。
2-1	■スクールバスについて（塩本） 市尾、峰、倉平の混乗スクールバスについて、1、2月も倉平まで来てほしい。雪、凍結の場合には峰でも良い。（この2ヶ月の対応で、仕事を辞めるか、学童に預け、月18,000円（2人）払うが悩んでいる。（何年も前から学校にもお願いをしているが、入札制だから決まっているので変えられないと言われたことがある。）	●市尾塩本線については、道路が凍結しバスがスリップする恐れがあるため、冬季の1月から2月の期間は、終点の倉平（くらだいら）・一徳寺（いっとくじ）方面には行かず、途中の峰バス停、市尾バス停での折り返し運行としている。 スクールバスは、児童・生徒の安全を最優先として運行をしている。少しでも危険な可能性があれば、できるだけ回避するよう心がけているので、ご理解いただきたいと思う。このことについては、保護者の方にお話をしている。また全体の運行時間が長くないように配慮していることもある。
2-2	■安全といってもほとんど凍結しない。12月でも無理してきてくれていることがある。実情に応じた対応をお願いしたい。	●もう一度、教育委員会と話をしてみる。1年間に何日運行するかという契約の話になってくる。
2-3	■夏休みは来てもらえない。中学生は部活があるので考えてもらいたい。	●スクールバスなので夏休みは通っていないと思う。自治会で意見をまとめていただいて持ってきていただくとおりはいいかなと思う。
2-4	■何年か前には、自治会にあげたら、自治会の話ではないということで学校にあげた経緯がある。	●そういうことになると、学校の中で校長や保護者の方と話をされていると思うが、動かない理由を聞いてみないとわからない。 もう一度、教育委員会に話をさせていただく。【検討事項1】
3	■スクールバスについて（塩本） 雲見に学生2人（中学生、小学生）がいるのに、スクールバスが小さくなったにも関わらず、迎えにいけないのはどうしてか。（こちらも入札制だから決まっているので変えられないと言われたことがある。）	●最優先で安全を第一に考えていること。運行に当たって、経路、どのくらい子どもが乗るかということを考慮している。市内でもこのような地域はあり、その場合には、保護者の皆様にご説明して通学方法を決めている。金谷地域では50分乗っていなければならないことに対する他の保護者からの申出もあり、皆様の思いを受け止めながら、子どもの事を第一に考え落としどころ見つけていきたい。
4	■旧家山公民館跡地（鈴木医院隣地）について（東部） 旧家山公民館跡地（鈴木医院隣地）の再利用はどうなっているのか？商工会、旧森林組合跡地の再利用はどうなるのか？また、防災の	●様々なご意見をいただいている。小公園のご要望もあれば、分譲地というご要望もある。開院の土地としてというご提案もある。トーマスの仲間たちが家山駅に停まるとした場合に、駅前の駐車している車をその土地に

	<p>観点からも、小公園の整備をお願いしたい。家山地区は昭和19年には震災に遭い余震も続いたこともあり、外へ避難をしたということもある。昭和32年には大火になり、家財道具を空き地に出したといったこともある。)</p>	<p>駐車してもらい、駅前には観光客が交流できるイベントスペースとして活用することなどのお話もある。現在、市では土地利用の計画を持っていないが、売却処分していく資産の一つとして考えた場合には、皆様がこの地域で生活していく上で、有効な活用が図られることを念頭において地元の方との相談の上、対処していきたいと考えている。</p>
5	<p>■国道473号の整備について（中部）</p> <p>左岸側が主流となっている。名ばかりの国道473号は交通量も少ない。そうなるとうり商店街も冷え込む。新東名島田金谷インターチェンジができて良くなると思っていたがならない。防災の観点からも、過疎地域に重点的な投資をお願いしたい。道が良くないとすたれていく。川根本町の方が、道が良いのが現状である。国道473号線の家山～五和間の道路整備は一時的には整備したものの進んでいない。</p>	<p>●最優先で国にもお願いしている。国道473号は御前崎港⇒菊川IC⇒大代IC⇒新東名という大災害時における「命の道」がつながるということで国への要望を積極的に行っている。しかし、なかなか国の予算がつかない。今の要望は、国もその道ができたならどれだけの効果があるかということデータを示すように指示をしていく時代になった。ただ単に造ってほしいと要望してもその要望は通らない。その道路を造ることによって、雇用の創出や渋滞の解消、企業の進出数など数値で効果を表さないとならない。（ストック効果を示していく必要がある。）結果も求められている。</p> <p>この中山間地域に人が住んでいてくれることによって、下流の住民は安心して暮らすことができるのも事実であるので、やるべきところはやらせてもらおう。現在、ハラダ製茶農園川根第一工場付近の工事を実施しており、今後も地元の協力が得られたところから事業を進めていく予定。エーワイ環境開発一般産業廃棄物処分場付近から地蔵峠側狭隘区間約20mについて道路拡幅工事を平成28年度から平成29年度に実施し、以降は予算の確保に努め、拡幅工事を順次進めていく予定。</p> <p>メートルあたりの事業費単価が高い個所しか残っていないが、車を走らせ、写真を撮って要望活動を続けているのでご理解願いたい。</p>
6	<p>■野守の池について（西向）</p> <p>野守の池のイルミネーションの再開はあるのか。また、池周囲の遊歩道の整備が途中で止まっているようだが、今後の予定はどうなっているか。</p>	<p>●イルミネーションだけでは人は来ない。案内板や食事どころ、お茶を飲む場所など全体を楽しめる場所として考えなければならない。当初は甘酒や焼き芋を売っていただいていたが、人が来ないということから、そのような取り組みもなくなってしまった。寒さも厳しい中、お客様に来ていただけなかったのが理由である。今の天王山のイルミネーションの点灯</p>

		<p>式では、中学生や保育園児、青年団の皆さんが集ってイベントができている。この地域力は、商業のイルミネーションではできないことである。行政が全部やると、アスファルトに水が流れるが如く水が浸透しない。地域の皆様がやることによって地域のぬくもりと達成感があるものになる。</p> <p>ぬくもりのあるイルミネーションを灯りのイベントとして広げていけるようになればいいと思う。天王山のイルミネーションは70万円、夏のイベントは観光協会を通じて市も財源支援をしている。</p> <p>ロコミで広げる、ここだけのイルミネーションを実施していくことはできると思う。</p> <p>野守の池の散策道については、平成22年度から26年度にかけて整備をし、当初の計画については完成ということになっている。ただし、整備を進める中で、歩道の設置が困難な場所があったので、その部分については、市道の一部にカラー舗装を施したり、浮き桟橋を設けることなどで対応している。また、湖面側に広い空き地がある場所については、その中を通ることを想定して歩道の設置はしていない。</p>
7	<p>■地域イベントへの市の支援について（西向）</p> <p>天王山公園での青年団の夏のフェスティバル等、地元の若者が先頭に立ってイベントを継続しているが、島田市として更なる補助やイベントへの協力、協賛などについて今後考えてほしい。</p>	<p>●毎年8月に開催されているフェスティバルについては、地域の若い人たちの自主的な取り組みの中で、16回も継続されていることについて、本当に素晴らしいと思う。</p> <p>街の真ん中だったら苦情になるくらいの音量であり、市長への手紙でも辞めさせるべきとのご意見をいただいたのは事実である。しかし、この地域の大人の皆さんは度量があって、若い人が率先して取り組んでいることについて理解をいただいている。</p> <p>こうしたことは、地域の活性化、川根人の育成、川根の魅力を感じるということ、この3点に価値があると思っている。フェスティバルが単にイベントというだけでなく、こうした価値を生み出していると感じている。</p> <p>市では今後も支援をしていく。あの山の上だけでなく、周りにお金が落ちる仕組みが必要ではないか。ここにある資源を有機的につなげること</p>

		で、泊まる、食べるといった発展性が出てくれば良いと願っている。
8-1	<p>■最終処分場について</p> <p>外出しすることで経費が安くなるという説明だったが、メリットはコスト面がある。デメリットは、外出しする量や回数の制限があるのではないか。そうした場合、これが収集への影響があるのではないか。例えば週2回の収集が1回になるとか。</p>	<p>●市民の生活の支障が出ないようにということを最優先に考えている。</p> <p>外出しも1個所ではなく複数個所に出して、リスクを分散させている。トン当たりの金額で出しており、回数の制限は無い。</p>
8-2	<p>■新たな最終処分場として川根地域が候補になるのか。</p>	<p>●新たな最終処分場の候補地は市内全域を対象として考えている。</p> <p>山が荒れて売り込みに来る人もいるが、様々な条件がある中でそう簡単な話ではない。全く白紙の状況である。</p>
9-1	<p>■川根支所の「すぐやる課」の復活について（東部）</p> <p>合併当時はあったが今はない。大雨が降って土砂が出た時にはすぐに対応してくれたが、本庁に吸収されてしまった。3ヶ月に1度は来てくれるとはいうものの、すぐにやってもらいたいが、確認に来て、それから行動ということで時間がかかる。常駐とまでは言わないが、川根の方には多く来ていただきたい。</p>	<p>●すぐやる課はここにはない。すぐやる課の職員を2人支所に配置していた。今は建設課の職員を2人配置している。配置している人数に変わらない。支所と連携を取りながら、概ね週1回3名から5名の班体制での集中的作業をしている。緊急時の対応についても随時行っている。すぐやる課がないので、すぐにやってもらえないというのは誤解である。</p> <p>来年度から「すぐやる課」に名称を改め、市民や自治会からの修繕等の要望にスピード感をもって、柔軟に対応することを目的とする。「すぐやる課」では、多様化する修繕等の内容に対応するため、取組に市民協働の理念を組み入れ、体制の強化を図ろうとするものであり、具体的には地元要望について、「市が対応すべきもの」「地元と市が協働して取り組むもの」、「地元が市から原材料支給を受けて対応するもの」などに区分して、協働のまちづくりを進めていく最前線の部署としての位置づけをした。</p>
9-2	<p>■大雨で土砂が出て車が走りにくいという場合に、連絡をすればすぐやる課がそれなりの措置をしていただけるのか。</p>	<p>●土砂災害の時には、危機管理課も対応するが、まず支所で現場を確認する。災害の危険性の高いところは毎週パトロールをしている。すぐに来てすぐに土砂を除去できるかということが遅れたといわれると辛いところがあるが、体制はきちっととっている。必要な時には、自治会長さんを通じてでも、支所に直接でもいいので連絡をいただきたい。土砂災害の時には集落が孤立するなどの恐れもあり、迅速な対応が必要である。</p>

9-3	<p>■すぐやる課がなくなったので、やってくれなくなったという認識を持っていた。</p>	<p>●体制は何も変えていない。</p>
9-4	<p>■建設課の2人は一生懸命やってくれている。感謝している。自治会長にも対応の報告にきてくれている。すぐやる課があれば便利だという考え方が一方にはある。</p>	<p>●そのために来年度から中身を充実していく。 ただ、法面の草刈などは手が回らないと思うが、市全域で同じような状況である。</p>
10	<p>■天王山のイルミネーションについて 事業経費は150万円～160万円かかっている。おおよそ半分は地域住民が負担している。その辺も考慮してほしい。</p>	<p>●観光（稼ぐ仕組み）と併せての話になると思う。</p>
11	<p>■ふるさと納税について 焼津市にふるさと納税をしたらずワイガニのいいものが送られてきたそうだ。市のふるさと納税の現状と方向性をお聞きしたい。</p>	<p>●焼津は水産物があること。ただ、ズワイガニは焼津ではとれない。焼津は日本中の水産物を集めて取り組んでいると思う。それがふるさと納税の本来の趣旨かというところではない。ふるさとを離れた方がふるさとを思って寄附をすることが本来の趣旨であるが、今はショッピングサイトになってしまっている。こうしたことから、総務省もある程度、こうした取り組みに改善を求めてくるものと考えられ、このままではいけないと思っている。島田も一生懸命やっており、現在の記念品の数は200品目。島田は、島田の業者さんが扱っているものを記念品として提供していくという考え方でやっている。大体今年度の末で1億円くらいを見込んでいる。昨年度の4倍くらいになる見込み。寄附金の使途は見える形で、効果を訴えていきたい。</p>
12	<p>■島田市民球場について トイレの改修についてお願いしたい。</p>	<p>●球場のトイレが古いのは承知している。球場が完成してから一度も改修をしてこなかった。まず球場の耐震化を最優先で取り組んだ。現在ベンチを取り替える工事を行っている。今後、年度計画を立てながら整備をしていく。10年程度ごとに改修していればこんなにひどい状況にはならない。 横井運動場公園の中の全体計画を出すように国土交通省から要請を受けている。人工芝のサッカー場の利用率は高いが、更衣室やシャワールームの要望もいただいている。しかし、河川敷には建てることはできない。</p>
13-1	<p>■AUのアンテナ工事について</p>	<p>●地主にお話がっていて行政は把握していない。</p>

	塩本集会場の近くにAUのアンテナを建てる工事を行っているが市は把握しているか。地元の人には知らなかった。	
13-2	■建てている場所は市有地である。(グラウンドの管理は町内会でやっている。)	●市有地(塩本の集会場の近く)調べて御回答する。【検討事項2】
14	■家山駅前の活性化策について 市と大井川鐵道が連携を密にして活性化を図るようにしてほしい。	●大井川鐵道の社長とは、川根本町の町長と3人で定期的な会議を行っており、その中でも家山駅周辺の活性化は大きな課題として意見交換をしているところ。今も行っている。具体的な話をかなり突っ込んで行っていることを了承いただきたい。 抜里のトイレは、大鐵の敷地内で大鐵がやるべきところだが、観光客も多いところなので市で実施している。家山のトイレは合併前に整備している。市で整備したトイレが静岡銀行との間にある。大鐵が民間であるがゆえに我々は間接的な支援が限界である。SLの到着時にはそれだけでは足りないことから、大鐵が仮設のトイレを駅前に設置しているのが現状。買い物、トイレなど総合的な整備が必要。寿園さんのカフェができてとても好評だと伺っている。そうした中、ある観光会社のお話では、もう2軒くらいお店があれば、早めに家山に着いて時間まで過ごすことができるということも伺っている。
15	■家具の転倒防止の申請手続きについて 高齢者が申請書類を書いて出せるかが疑問である。そこまでの行為に至るのかということを見ると、この仕組みをもう少し考えていただきたい。	●転倒防止の申請手続きについては、危機管理課でやっているのを教えてもらって申請をしていただきことや、長寿介護課もかなり丁寧に対応をしているので、そちらに御相談いただいても結構。 (危機管理部長から) 年末でこの件のご相談はたくさんいただいている。危機管理部としては(市民の皆様命を守る対応として)ありがたい話なので戸別にご相談を伺いながらやらせていただく。地域でもお手伝いをしていただいで、地域ぐるみで取り組みをしていただくとありがたい。 (市長から) 昭和56年以前の建物については、耐震診断は無料で行っている。耐震性

		<p>がないと診断された場合には、耐震補強は来年度一年間限りではあるが、上乗せした補助額として95万円（高齢者世帯）、一般家庭で75万円の補助金額が上限となる。平均で120万円程度、耐震補強の経費がかかるといわれている。補助金との差額は自己負担になるが、その負担も厳しいという方については、防災ベッド、防災シェルターは耐震性がない家屋が補助の条件となるが、自己負担はほとんどないと思う。</p>
--	--	---

※15 の回答の一部以外、回答は全て市長から回答した。

■自治会長から

- ・ 1月3日午後1時から「新春みんなで顔をあわせる会」を文化センターで実施する。
- ・ 1月8日に成人を祝う駅伝大会を実施する。
- ・ 1月17日には市主催の自治会サミットが開催される。参考になる講演であると思うので、参加をお願いしたい。（チラシを回覧していただきたい。）
- ・ 島田市と合併して8年となるが、29 から 30 年の間に、冠を付けた事業を実施したいということがまちづくり川根の会からお話がある。予算が必要なので、各町内会でも頭に入れておいてほしい。

④当日の様子



⑤検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
検討事項 1 2-4	<p>●そういうことになると、学校の中で校長や保護者の方と話をされていると思うが、動かない理由を聞いてみないとわからないが。もう一度、教育委員会のほうに話をさせていただく。【検討事項 1】</p>	<p>■市尾塩本線については、冬季は凍結による危険回避のため峰・市尾までの折り返し運行をしています。天候のことなので、凍結するかしないか予測は出来ませんが、凍結する可能性はゼロではないので、児童生徒の安全を最優先して運行していることをご理解いただきたいと思います。</p> <p>スクールバスは、児童生徒が登下校するために運行するので、夏季休業中は運行していません。また、部活動は部によって活動日時が異なるため、個別の時間に合わせて運行することは困難であることをご理解いただきたいと思います。</p>
検討事項 2 13-2	<p>●市有地（塩本の集会場の近く）調べて御回答する。【検討事項 2】</p>	<p>■夏頃に名古屋の業者から財政課へ塩本集会場敷地内に携帯電話無線基地局を設置したいという相談が財政課にありました。敷地も広いので市としては設置に関しては問題ないと思うが、設置場所を決める際は地元と現地で立ち会った上で決めてほしい旨を伝えました。車座トークの翌日（22日）、名古屋の業者に確認したところ、現地ではボーリング調査をただけでまだアンテナ工事は一切行っていないとのことでした。ボーリング調査をする際、自治会長には話をしたとのことでした。（恐らく塩本地区まで伝わっていなかったのではないのでしょうか。）年が明けたら市への工作物設置許可申請や地元への説明、場所特定の際の立会いを実施していきたいとのことでした。（業者は自治会長からは早く設置してもらいたいと言われたようでした。）</p>